

4月上旬は最低気温が氷点下を観測する日が多く、ナシ類の発芽時点では、昨年より5日程度遅れている状況です。このまま推移すると、南水の開花始めは、南部地帯で4月23日頃、北部地帯で4月30日頃と予想されます。開花時期は、栽培地帯や土壌条件によっても異なりますので、各園地の生育状況を確認し適期作業、適期防除に努めましょう。また、毎年開花期の薬剤散布が遅れる園が見られます。下記を参考にして散布遅れがないようにしましょう。

いよいよ最重要作業の人工受粉に入ります。高品質生産は、結実確保が第一歩となります。別紙の要項を参考にしながら、適期に人工授粉作業を行ってください。（詳しくは、別紙を参考にしてください）

## ◆ 和梨の定期防除

【年度別の南水開花状況】（調査地点：田麦沖）

年度	平年	H24	H25	H26
開花日	4/24	4/29	4/25	4/30頃



### 開花始め期の防除（南水等が1～2分咲いた頃）

今回の防除は、越冬している黒斑病やハマキムシ、シンクイムシ類の初期感染や発生密度を下げるうえで重要となりますので、遅れずに散布しましょう！

散布時期：4/23～4/30頃（目安となりますので各園の生育をよく確認してください）

散布薬剤

水	100ℓ
展着剤	20ml
サムコルフロアブル	20ml *注意事項③、④参照
ポリオキシソ水和剤	100g

対象病害虫：黒斑病、黒星病、ハマキムシ類、ケムシ類

散布量：10a 当り 350ℓ

散布日	月	日
散布量		ℓ

～ 注意事項 ～ \*必ずお読みください。

- ① 結実が第一のため、ツツハナバチやミツバチ等の訪花昆虫に影響がある他の剤は使用しないようにしましょう。
- ② 収穫前や収穫中の作物への飛散に十分注意してください。
- ③ 開花期前後が高温で、アブラムシ類の発生が早い場合は、ウララ DF2,000倍（14日前、2回）を加用する。
- ④ サムコルフロアブルに代えてロムダンフロアブルの3,000倍（7日前、3回）でもよい。
- ⑤ 不明な点・詳細については、営農センターまでお問い合わせください。

◆ 西洋梨の定期防除は裏面をご覧ください。

## ◆ 西洋梨の定期防除

田麦沖のラフランスの発芽は、昨年より5日早く確認されました。このまま推移すると、開花は田麦沖で4月29日前後と予想されます。開花直前の薬剤散布は、初期のハマキムシ類の発生を抑えるうえで重要です。各園の生育状況を良く見極め、散布が遅れないように注意しましょう！

### 1. ラフランス生育状況調査（田麦）

	平年	H24	H25	H26
開花	4/27	4/30	4/26	4/29頃



### 2. 病虫害防除

		散布日	月	日
散布時期	開花直前の防除(1~2輪咲いた頃)			
散布薬剤	水	100ℓ 当り		
	展着剤	10ml		
	ロムダンフロアブル	33ml	*注意事項③参照	
	トップジンM水和剤	100g	*注意事項④参照	
対象病虫害	輪紋病、胴枯病、(腐らん病)、ハマキムシ類、ケムシ類			
散布量	10アール当り：300ℓ			
注意事項	① 訪花昆虫保護のため下記以外の殺虫剤は使用しない。また、散布は早朝に実施する。 ② 収穫前や収穫中の作物への飛散に十分注意してください。 ③ サムコルフロアブルに代えて、カスケード乳剤2,000倍(14日前、2回)でもよい。 ④ 赤星病の発生園では、オンリーワンフロアブル2,000倍(前日、3回)を加用散布する。 ⑤ 不明な点・詳細については、営農センターまでお問い合わせください。			

### 3. 4月下旬の重点作業 \*必ずお読みください。↓

- ① せん定後の切り口の保護と、腐らん病の削り取り処理、切除及び塗布  
腐らん病予防、枯れ込み防止のため、切り口等には至急トップジンMペースト等を塗布する。  
腐らん病治療として患部の削り取りを行い、トップジンMペースト等を塗布する。
- ② 防霜資材の準備 昨年に引き続き凍霜害の発生が心配される。早めに防霜資材の準備をする。
- ③ 枝の誘引  
普通樹の場合、主枝候補枝をオーロラ45度、ラ・フランス30度に誘引する。わい台樹は側枝を水平誘引。
- ④ 支柱やトレリスへの主幹の固定 \*ゆるんだり切れたりしていないか、よく確認する。  
樹がグラグラ揺れると根が傷み生育が悪くなるので、主幹はしっかりと固定する。

#### ◎結実安定対策

- ◆ オーロラ等結実の安定しない品種は、必須作業となります。人工受粉を徹底しましょう！

#### ◎摘花(摘蕾)について

- ◆ すべて果そうごとの摘蕾・摘花として一輪摘花はしない。  
⇒摘花する果そうは・・・2年枝(腋芽)の花、主幹部に直接着花したもの、遅咲きの貧弱な果そう、目通り以上で側枝の直下(真下)の果そう
- ◆ 目通り以下の花は、凍霜害が心配されるので多目に残すようにする。(極端に弱い果そうのみ実施する)